

小泉順也（こいずみ・まさや）

一橋大学大学院言語社会研究科教授。専門はポスト印象派、ナビ派。最近の論考として、「サミュエル・コートールドとポール・ゴーガン」（『コートールド美術館展』、東京都美術館ほか、二〇一九年）、「オルセー美術館におけるナビ派のコレクション——作品の収蔵数の変遷と最近の動向（『人文・自然研究』、一三号、二〇一九年）。一四号、二〇二〇年。翻訳監修にギョ・コジュヴァル『ヴェイヤール』創元社、二〇一六年。

横山由季子（よこやま・ゆきこ）

金沢21世紀美術館学芸員。専門はフランス近代美術・現代美術。主な論文に、「視覚から触覚へ——ポナールのデッサンに見る美学」（『親密派の光と影 ポナールが生きた時代』ヤマザキマザック美術館、二〇二〇年四月）、「絵画の開かれ・ポナールの作品における知覚と記憶をめぐって」（『ピエール・ポナール展』国立新美術館、二〇一八年九月）など。

吉村真（よしむら・しん）

早稲田大学大学院文学研究科美術史学コース博

士後期課程。ポナールに関する主な論文に「ピエール・ポナール作『画家のアトリエ』に関する考察」（『美術史研究』二〇一七年二月）、「ポナール『ミモザの見えるアトリエ』における距離の問題について」（『プロジェクト・ボスケ〈茂み〉のなかでの遊び方』二〇二〇年）。

袴田紘代（はかまた・ひろよ）

国立西洋美術館主任研究員。フランス近代美術史専攻。主要論文に「一九世紀末フランスにおける美術と演劇の交差」（東京藝術大学博士論文、二〇一五）など。訳書にグリフィス著『西洋版画の歴史と技法』（共訳、中央公論美術出版、二〇一三）。担当展に「北斎とジャポニスム」（国立西洋美術館、二〇一七—一八）など。

杉山菜穂子（すぎやま・なおこ）

三菱一号館美術館主任学芸員。専門は一九世紀フランス美術。「ヴァロットン展」（二〇一四年）、「オルセーのナビ派展」（二〇一七年）、「画家が見たこども展」（二〇二〇年）他担当。論文に「トゥールーズ・ロートレックとシェレのジャポニスム」（『鹿島美術財団年報』三十一

号、二〇一三年）など。著書に『かわいいナビ派』（東京美術、二〇一七年）など。